

おわりに・「手作り絵本の楽しさ」を体験しましょう

「幼児の造形表現」の授業は、幼稚園教諭や保育士の免許をとりたい学生が受講します。授業のはじめに、半年間で十五回の授業内容を話します。十五回絵本作りの授業をするのでなく、子どもの造形活動の発達に関する講義や教育実習で試みる教材研究と保育案の立て方など、盛りだくさんの学習内容があります。

絵本に関する授業は「ソフトカバーの絵本」と「飛び出す絵本」だけです。一番ハードな授業になることを話したあと、学生たちと一緒に「えほんのひろば」へいきます。毎年、三十名ほどの受講生がいます。

自分たちが授業で絵本を作ることに強い関心をもっている一方、絵を描いたり、作業をしたりすることが苦手な自分が絵本を作ることができるのか不安に思う学生が多くいます。

二千冊あまりの市販の絵本と先輩たちが残してくれた手作り絵本が二百冊余り、表紙が見えるように置いてあるのを見て、学生たちは歓声をあげ、それぞれが気に入った絵本を手にとり懐かしそうに見はじめます。小学校の低学年までは絵本を見ることがあったとはいえ、十数年ぶりに絵本を手にとったという学生が多いのです。そして、市販の絵本と手作り絵本から、それぞれころ惹かれる絵本を選んで感想を書きました。

その中の、主として手作り絵本に関するものを取り上げて紹介し、関連して、手作り絵本ととり組む際の注意事項をいくつか話しておきたいと思います。

対象と目的をはっきりと

《学生の感想より》

「市販絵本と手作り絵本の」どちらの絵本も、読む子どもを思った工夫がされて素敵だと思いました。」

「市販の絵本はすべての子どもを対象していますが、手作り絵本はある特定の人や自分のために作られていることが多いので、思い入れが伝わってきて深い作品が多いと思います。」

「市販絵本は）文、絵ともにプロが描いているだけあり、やはりまとまっって見やすいです。絵本の中の一語一語が選ばぬかれた言葉なのだと思います。シンプルでわかりやすい表現が多く、一文が長すぎないことも、読みやすい理由だと思います。」

◆対象を絞り込む

制作にとりかかる前に、気持ちをちょっと「作る目的」に向けてください。目的のといつてもかたかく考える必要はありません。「自分が楽しむために」、「大切に

しているものをきちんと保存するために、「身近な人（家族、友人、同好の人など）に見せるために」程度でよいのです。誰に見せたいのかをはっきりしておくことは手作り絵本の第一の基本です。

手作り絵本は、子どもだけを対象にしてはいけません。幼児から高齢の方まで幅広い年齢層が対象になるといえます。ただ、幅広い年齢層を狙った作品は、かえって焦点が甘くなり、印象（インパクト）が弱くなって、つまらない作品になりがちです。

◆手作り絵本は「想い」を伝える

手作り絵本の第二の基本は、題材を選ぶ時に相手に何を伝えたいのか（目的）をはっきりしておくことです。

学生の感想の中に、思い入れが伝わると深い作品になるという意味の指摘がありました。ここで「（相手に）思い入れが伝わる」というのを「（自分が）心を開く」という言葉に置き換えてみましょう。

「（自分が）心を開く」というのは、自分が抱いている気持ち（想い）を率直にあらわすということです。つぎのようなものがそれに当たります。

○あるできごことに遭うことで生まれた感情や感想

○自分が体験して得た事実 (What・何、Why・なぜ、When・いつ、How・どう) によって、Where・どこ、Who・誰) の記憶

○感情や感想や体験の記憶を通じて得た考え

これらを物語 (筋書きIIストーリー) に組み立てて題材にし (構成し)、自分の得意な表現方法で表現できた時、「深い作品」になります。

だから、できるだけ身近なものに題材を求めるように心がけてください。逆に、自分の想いとかけ離れた架空の (バーチャルな) 題材は、どんなに上手で格好がよくても (技術的に優れていても)、キラツと輝く、感動を呼ぶ作品にはなりにくいです。

◆言葉を大切に

絵も「物語る」力をもっていますが、「想い」を伝える、つまり「物語る」のは、やはり文章です。

無味乾燥な文章には魅力がありませんが、絵を説明するだけの文章や、思い入れたつぶりの文章は、ないほうがむしろ、などと言われます。絵だけの絵本も、なかなか素敵なものが多いです。

「くどいお喋りは敵」なのです。言葉だけで「想い」を伝える詩人は、言葉を

大切にします。詩を書けとはいませんが、絵の力を信じて文章をできるだけスリムにし、絵と文章のバランスをとることが大事です。

なぜ「世界でただ一冊」なのか

《学生の感想より》

「市販のもののように質の高い絵本をひとりで作ることはとても難しいと思います。しかし（手作り絵本の世界は）素材も多様であるし、手作りならではの素朴さや温かさがあると思います。世界にひとつの作品になることも手作り絵本のもつ大きな魅力です。アイディアや工夫を深め、こころのこもった作品が作ればよいと思います。」

「市販の絵本にはないあたたかさが、手作り絵本にはあるように思います。不揃いな絵本や文字、創意工夫された中身、あまり長くないストーリーの中には、さまざまな思いや苦勞がつまっていました。」

手作り絵本は「世界で一冊しかない」といいます。それは、手作りなので一冊しかない（同じものを何冊も作れない）という、物理的な理由だけではありません。もうひとつの、もっと大切な（本質的な）理由があります。それは、手作りの絵本があなたとあなたが選んだ相手との、顔をつき合わせての（直接的な）対話のツール（用具、手段）だということです。

自分自身の手ですべてを手作りし、ついでに作る過程も楽しみ（あるいは苦しみ）、そしてできあがった、あなたの「想い」のいっぱい詰まった手作り絵本を、自分の親しい人たちに楽しんでもらおうと思っ作っています。見方をかえると、売りもの（商品）ではなくて、親しい人へあなたの「想い」を伝えるための贈りものだという事です。これが、大切な（本質的な）もうひとつの理由です。

丁寧は、失敗をおそれず絵本を作ってみましょう

手早くすると上手だと思ひ、丁寧にしてゐると、のろくさいとか下手だとか、やる気がないと思ひがちです。しかし手早さは粗雑さと背中合せて、ひとつ間違えれば期待はずれの結果を招きます。また、丁寧にするのとのろくさいのとはちがいます。

丁寧さは、はじめはのろくさいように見えますが、基本を丁寧に守つてゐると、「きちんとするべきもの」と「省いてもよいもの、ゆとりをもつてよいもの」とを見分けることができるようになります。

そうなると、無理・無茶・無駄がなくなり、手早くできるようになるだけでなく、できばえにバラツキがなくなります。これを手際がよいといひます。コツ（ノウハウ）を飲み込めたといひるのはこのことです。

それに、人は慣れないうちだけでなく、手際の良い人でもやはり失敗すること

があります。大切なのは失敗しないことではなく、失敗の反省をきちんと生かすことです。

だから考え込んで尻込みしないで挑戦しましょう。それは「やってみないとわからない」という無責任な意味ではなくて、体験をベースにしたものでないと実際に役立つものにはならない、ということなのです。

絵本の種は、あなたの身の回りにいっぱいあります。まず、童心にかえて「ぐちゃぐちゃ線の絵本」を一冊作ると、いままで気づかなかった絵本の種があなたの目に飛び込んできます。子どもの何気ないつぶやきからも絵本を作ることができます。材料も身近にあるものを使って失敗をおそれず作ってください。手作り絵本の楽しさを体験してください。

絵本作りに興味関心が出てきたら、気軽に奈良教育大学の「えほんのひろば」へ足を運んでください。カウンターの人に声をかけ簡単な入館手続きをすれば、自由に学生の手作り絵本と市販の絵本を手にとることができます。図書館の開館日時はホームページを見るか、電話で問い合わせてください。

■著者紹介

梶田 幸恵 (かじた・さちえ)

昭和 40 年 (1965 年) 神戸大学卒業、神戸で小学校教諭

昭和 56 年 (1981 年) 宮城教育大学助教授

平成 6 年 (1994 年) 奈良教育大学教授

平成 20 年 (2008 年) 奈良教育大学 定年退職

著書に『粘土細工から彫塑教育へ』(明治図書、1980 年)、『毛筆のよさを生かす美術教育』(明治図書、2003 年)、『子ども美術館 24 ねんどで人をつくる』(ポプラ社、1986 年) 他

手作り絵本に『光明皇后』、『いざなみ』、『アマテラス』、『さほ姫』、『とよたま姫』、『奈良の世界遺産』、『雅楽』、『正倉院』 他

奈良教育大学ブックレット 第 1 号

手作り絵本の楽しさ

2008 年 11 月 23 日 初版第 1 刷発行

著 者 梶田幸恵

企 画 奈良教育大学出版会

装 丁 仲野真輔 (「仲真」)

発行者 三好信久

発行所 株式会社東山書房

〒 604-8454 京都市中京区西ノ京小堀池町 8-2

TEL:075-841-9278 FAX:075-822-0826

<http://www.higashiyama.co.jp>

印 刷 創栄図書印刷株式会社

© 梶田幸恵 2008 Printed in Japan ISBN978-4-8278-1465-1

奈良教育大学出版会発足にあたって

奈良教育大学は、このたび奈良教育大学出版会を設立することいたしました。

国立大学の法人化後すでに五年を経過しましたが、国立大学にはこれまでも増して大学の教育と研究の成果を広く社会や地域に発信していくことが求められています。

本学における研究は、教育大学という特性上、教育学をはじめとする人文社会科学、自然科学、さらに芸術、体育学まで多様な分野にわたっています。特に、教育大学として社会的要請に応える学校教育と生涯学習に関する研究、学校教育における日々の教育実践上の課題に対応した研究を進めています。また、古都奈良の自然と歴史・文化に根ざした特色ある学際的研究も行われています。

しかしながら、これらの研究成果は必ずしも学校現場をはじめ地域社会には十分に知られていないのが現状です。

今回の奈良教育大学出版会の設立により、本学教員の研究成果を容易に出版することが可能になるとともに、一般教養書、学術書等の出版活動を通して、教育界をはじめ広く社会に貢献し、ひいては我が国の学術・教育・文化の振興・発展に寄与することができると確信しています。

出版会の最初の事業として、本学教員の研究内容を平易に紹介するブックレットを創刊いたしますが、今後とも「地域の知の拠点」としての大学の社会的使命を果たしてまいりますので、出版会の事業にご理解とご協力・ご支援をお願いいたします。

二〇〇八年九月

奈良教育大学長 柳澤 保徳